

市制 20 周年記念



受け継がれる心、紡がれる文化

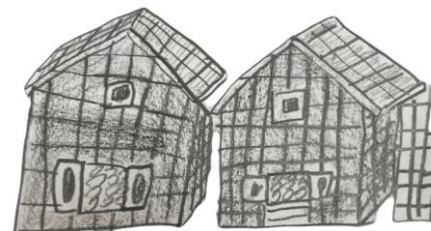


有緝小学校

令和 6 年度 3年生の取組

～時が刻む河崎のまちなみ、次の世代へつなぐ蔵の風景～

河崎のまちは、黒塗りの蔵が並んでいて、私たちの大好きなまちなみです。とおりを歩きながら町の特徴を調べてみました。



河崎のまちなみ

「伊勢の台所」と呼ばれた河崎。切妻屋根、妻入りの町家、黒塗りの蔵が並んでいてどこか懐かしさを感じる風景です。蔵などには説明の表示板も付いていて、昔からのまちなみを守っていきたいという思いがあちらこちらに感じられます。

本をふせたような屋根を「切妻屋根」といい、屋根が八の字のように見える面に入口がある家を「妻入り」の家というんだって。



妻入りの町家

切妻屋根には、河崎独特の「隅蓋」の瓦があちらこちらで見ることができるよ。火災から家を守る願いがこめられているそうだよ。



屋根瓦に、波・蛙・亀・船などの「隅蓋」

「世古」とよばれる細い道が、町と川をつないでいるよ。



世古

～道具が語る、昔の商人たちの思いとくらし～

わたしたちは、昔の生活道具がどのようにかわってきたのか、河崎商人館さんと和具屋さんに出かけ、くらしのへんかを調べました。

伊勢河崎商人館

商家の和室や暮らしを支えた商業の道具や記録が展示されています。

日本一古い紙のお札「山田羽書」が、伊勢の地で生まれたんだって。



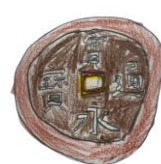
飾り瓦やいろいろな「隅蓋」が展示されていておもしろいよ。

和具屋

300年近くなる陶器問屋。蔵の中には60メートル余りのトロッコのレールが残っており、奥まで荷物を運ぶのに使われていました。



社会科の教科書にあった昔のアイロンや古銭、教科書などの展示がたくさんあり、昔のくらしを想像できるよ。



古銭



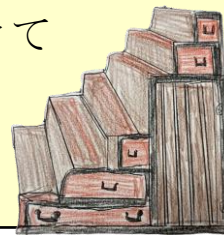
地球儀

3年生の感想から ～河崎商人館を訪ねて～

昔はトラックや自動車がなかったので、船でいろんな物を運んでいたそうです。船は勢田川を使って河崎のまちに荷物をおろしていたと聞いておどろきました。

屋根は鬼がわらの屋根で、横についているのは、隅蓋という物でした。隅蓋にはいろんな形があって、亀の形がかわいかったです。ほかにも冷蔵庫が木でできていたり、せんたくきがレバー式だったりで、びっくりしました。

箱かいだんは、引き出しにもなるので便利な階段です。



資料館の中に入ってみると、厚いとびらがあってコンクリートや土でできていました。もしも火事があってもとびらを閉めれば火が入ってこなくなるなんてよく考えてあるなあと思いました。

河崎商人館の建物は、何百年も姿を変えずに保っていてすごいなあと思いました。商人館は、みんなが昔の展示物を見て、歴史を学ぶところだと思っていたけど、建物や昔の物を長い間守りつづけている人たちがいるということも学びました。自分たちも将来まで、守っていきたいと思いました。

～味噌と醤油の香りが紡ぐ、百年の職人技～

神久にある角屋味噌・醤油醸造蔵と、かどや民具館を訪ねました。大きな樽と蔵の中にひろがるお醤油の香りにおどろきました。すぐ隣にある民具館には、昔のものがたくさんあって、はじめて見る物がたくさんありました。



角屋味噌・醤油醸造蔵

約110年の伝統を持つ味噌・醤油醸造蔵。蔵の中では味噌と醤油の香りが漂い、創業当時から使い続けている大きな樽に、長い歴史を感じます。自然の微生物と職人さんたちの丁寧な手作業が、味噌と醤油をおいしく仕上げています。



樽は2メートルもあり、蔵に入っただとたん、おいしそうなおい。味噌ができるまで、2、3年もかかるそうだよ。

かどや民具館

船で神宮に参拝する船着場に「二軒茶屋餅」があり、400年にわたる大福帳や餅づくりの道具、生活雑貨などが展示され、昔の生活ぶりがわかります。

